

## 術中経食道心エコープローブによる胃損傷の要因に関する検討

### 1. 研究の対象

2023年3月～7月に当院で心臓血管外科手術を受けられた方（45～90歳）

### 2. 研究目的・方法

心臓や大動脈の手術を行うときには、外科医に見えない部分もきちんと見ながら手術を進めて安全確実な治療を行うため、麻酔がかかってから「経食道心エコー」という特殊なエコーのプローブ（胃カメラくらいの太さ）を口から入れて心臓や大動脈を映し出して、それを見ながら手術を進めます。ただ、プローブの操作によって食道や胃が傷つくことが稀にあります。当院では胃や食道に穴が開いたりするような大きな合併症は無く、出血が少しある程度で済んでいます。その程度のもも回避したいと思い、この研究を行っています。CT画像から食道や胃の走行を解析したり、見る対象と胃との距離を計測して、胃出血があった方となかった方でのどのような違いがあるかを見つけ出し、慎重な操作にもかかわらずなぜ出血が起こってしまったかを明らかにしていきます。

研究期間は、倫理委員会承認日～2024年3月31日までとなります。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

検討のために用いるのは、電子カルテ内に保存されている年齢、性別、手術の種類、CT画像などで、いずれも個人を特定されない形で検討を行います。

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

高知大学医学部麻酔科 特任教授 渡橋和政（研究責任者）

[TEL] 088-888-2022（連繋医工学内）